

サイバーセキュリティ 产学連携協議会

IAC3: Industry-Academia Cyber Collaboration Consortium

JNSA 2025年度活動報告会

大塚 玲

IAC3代表

情報セキュリティ大学院大学

設立趣意書：JNSA前会長 田中英彦先生

サイバーセキュリティ分野における研究所や大学と、サイバーセキュリティ関連企業との連携について2021年7月27日

情報技術が多用され、今後の社会生活にITは益々重要な役割を占めることが考えられます。

しかし、それをきちんと成功させるためには、そのベースにサイバーセキュリティ対策が機能していることが必要です。一方でサイバー攻撃は、益々激しく、また高度になり、それを防ぎきれていないのが現状です。

サイバー攻撃が突くシステムの脆弱性は、既存ソフトウェアのみならず、新しく作られる様々なソフトウェアに存在し、**脆弱性の増加に対策が追いついていない**のが現状です。従って、この状況を**抜本的に解決する**ことに向けて、知恵を絞ることが求められます。研究所や大学はその研究をすることが期待されますし、セキュリティ対策企業は、サイバー攻撃の現状やそこから考えられる対策のニーズを明らかにして研究所や大学に伝える必要があります。

しかしながら、従来の両セクター間の連携は余り活発ではなく、互いに相手の状況を十分に理解していないのが現状ではないでしょうか。それはお互いに不幸なことです。日本の研究機関や大学は従来、基礎的な分野で世界的に優れた成果を出してきた歴史があり潜在的に大きな力を有しています。しかし、従来、セキュリティ業界は、国内よりも外国に目を向け、そこで開発された製品や手法をわが国に紹介するが多く、わが国の研究機関や大学にセキュリティ業界が抱える問題点をきちんと示し、その解決策を創り出すことに向けて密な協力をする努力が不足していたのではないでしょうか。

そこで、これから**力強いセキュリティ業界を創造**してゆくために、これら両セクターに属する人々が顔を合わせ、定期的に情報交換をし、対策に向けて密な意見交換をすることから連携を始めるのはとても意義あることだと思います。そのような連携活動を開始致したく、ここにその活動グループへの皆様のご参加をお願いしたいと思います。

その連携の結果として、**両セクター間の垣根が取り払われ、実務的な研究開発が盛ん**になり、セキュリティ企業活動の隆盛に繋がり、サイバー対策が充実して安全なIT活用による社会活動の発展に寄与できればこれに優る喜びはありません。

運営委員（2025年5月現在）

・代表

大塚 玲（情報セキュリティ大学院大学）

・幹事

佐藤 健（NRIセキュアテクノロジーズ株式会社）

橋本正樹（香川大学）

米村恵一（木更津工業高等専門学校）

矢野由紀子（株式会社FFRIセキュリティ）

・顧問

田中英彦（岩崎学園）

・運営委員

阿萬聖（ジェイズ・コミュニケーション株式会社）

加藤雅彦（長崎県立大学）

大坪雄平（IISEC）

齊藤泰一（東京電機大学）

滋野謙太郎（岩崎学園）

下村正洋（特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会）

須賀祐治（株式会社インターネットイニシアティブ）

砂原秀樹（慶應義塾大学）

富田高樹（みづほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社）

平山敏弘（情報経営イノベーション専門職大学）

松浦幹太（東京大学生産技術研究所）

丸山司郎（株式会社FFRIセキュリティ）

三村守（防衛大学校）

三宅優（KDDI株式会社）

宮地充子（大阪大学）

森達哉（早稲田大学）

森井昌克（神戸大学）

山内利宏（岡山大学）

吉岡克成（横浜国立大学）

产学連携サロン

- 第1回 2022年6月30日(木)
「スマホ・マイナンバーカードのしくみとSelf-Sovereign Identityへの期待」大塚(ISEC)
「真に有益な产学連携の実現に向けて必要なことは何か?」森(早大)
「KDDI総合研究所における产学連携の取り組み状況」,三宅(KDDI)
- 第2回 2022年9月28日(水)
「高専における产学連携の現状と課題」米村(木更津高専)
「产学連携への期待」菅谷(NRIセキュア)
- 第3回 2022年12月15日(木)
「サイバーセキュリティ研究の社会展開と产学連携」吉岡(横国大)
「スタートアップにおける产学連携」萩原(ゼロワン)
- 第4回 2023年3月7日(火)
「オフェンシブセキュリティ研究から見る产学連携」秋山(NTT)
「奈良高専におけるサイバーセキュリティ教育研究 2023春」岡村(奈良高専)
- 第5回 2023年6月22日(木)
「長崎県立大学情報セキュリティ産学共同研究センターにまつわるあれこれ」加藤(長県大)
「DEEP METRIC LEARNINGを活用した異常検知・不正検知の産学研究と準同型暗号を駆使した
秘匿データの活用」今林(EAGLYS),阿萬(ジェイズ・コミュニケーション)

产学のギャップ

- ・企業が求めるもの = 使える技術 (金になる)
- ・大学が求めるもの = 新規性が高い研究テーマ (論文になる)
- ・両者が一致するケースはそれほどないのだが・・
 - ・議論・検討している内に、偶然みつかることがある

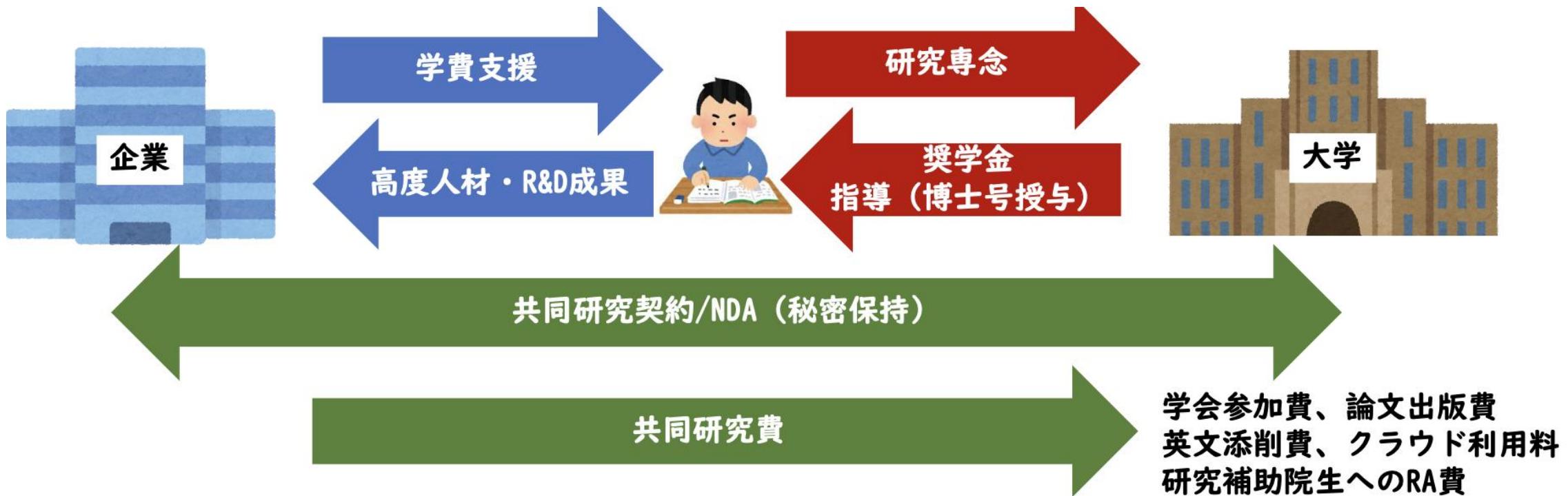
→ 「マッチング」が重要

共同研究：何にお金がかかるか

- 物品費：研究内容に依存
- 出張旅費：学会発表（最近は対面が増加、円安・・）
- 人件費：大学院生をRAとして雇用
 - 海外大学との共同研究：博士 1 人で 1000 万円／年（雇用契約）
 - 国内大学との共同研究：博士学生 + 修士学生× 数名で 200 万円／年
 - 安定して研究に打ち込めるか（バイトをする学生が多い）
 - 研究に打ち込むインセンティブ
(時として) 社会人以上に成果をあげる学生が多い

有望な产学連携の形態

- ・企業から大学に若手社員を社会人博士として送り込む
 - ・可能であれば共同研究契約とセットで（NDAでも可）
 - ・社会人D支援制度があればなお良い



社会人Dを大学に派遣するメリット

- ・若手社員のリスキリング + 高度な専門知識を獲得した人材育成
- ・若手社員が目立った研究成果をあげることによる、企業のプレゼンス増強に貢献（「トップカンファレンス効果」は大きい）
- ・大学としては就職活動を終え、経済状況が安定した学生が一定期間研究に専念することで、成果を期待できる
- ・自社業務をベースとして、高度な専門知識を持つ従業員の増加
- ・社外のネットワーク形成
- ・従業員の動機づけ
- ・人材確保・育成

企業の新規事業・研究開発部門にリーチするために

- ・最新の技術動向を紹介する

「サイバーセキュリティセミナー」

を開催します！（JNSA会員企業 無料）

第1回 8月28日(木) テーマ：

「AI・LLMセキュリティの最前線～研究と実践の架け橋～」

於 情報セキュリティ大学院大学（横浜駅徒歩3分）

サロン形式の限界：

产学連携の在り方に興味を持つ人 ≠ 新規事業・研究開発担当者

「AI・LLMセキュリティの最前線～研究と実践の架け橋～」

日 時：2025年8月28日(木) 14:00～17:00

会 場：情報セキュリティ大学院大学（横浜駅徒歩3分）

主 催：NPO日本ネットワークセキュリティ協会/サイバーセキュリティ产学連携推進協議会

【プログラム】

14:00～14:10	開会挨拶 橋本 正樹 准教授（香川大学 創造工学部）
14:10～15:00	「Agentic AI / LLMによるサイバーセキュリティの新潮流」 大塚 玲 教授 (JNSA-IAC3代表 / JSAI SIG-SEC主査 / 情報セキュリティ大学院大学)
15:00～15:50	「LLMの安全性に向けた取り組み」 関根 聰 教授（国立情報学研究所 大規模言語モデル研究開発センター）
15:50～16:00	休憩
16:00～16:50	- 矢野 由紀子 氏 (JNSA-IAC3 / 株式会社FFRIセキュリティ)
16:50～17:00	閉会挨拶 佐藤 健 氏 (NRIセキュアテクノロジーズ株式会社)

- 参加資格：JNSA会員 **定員70名**
- 参加費：無料

ご清聴ありがとうございました。

ご参加をお待ちしています。

第1回 8月28日(木) 「AI・LLMセキュリティの最前線～研究と実践の架け橋～」
於 情報セキュリティ大学院大学（横浜駅徒歩3分）
参加費無料